

中大規模木造建築加工・施工技術
基礎講習 修了考査
(令和元年11月29日(金)実施)

受験者数 73名

【試験問題】

【第1編 木質構造の基礎知識】

問1 (第1章 木質構造の概要)

木材の強度は繊維方向(L方向)が最も高く、放射方向(R方向)や接線方向(T方向)ではその1/10~1/20程度となる。(○)

問2 (第2章 木質構造材料の種類)

機械等級区分構造用製材は、機械により非破壊的に荷重や打撃を加えヤング係数を測定し、等級区分するものをいう。(○)

問3 (第3章 部材の接合)

ボルト接合等における変形性能は、材厚とボルト径の比に左右され、材厚がボルト径とくらべて大きい場合は、一般に極めて脆性的な破壊を示す。(×)

問4 (第4章 接合金物の概要)

製作金物の接合耐力や接合金具配置は、日本建築学会「木質構造設計規準・同解説」をもとに設計できる。(○)

問5 (第5章 防火に関する木材利用の留意点)

階数3(地階を含まない)の木造建築物の場合、構造用集成材、もしくは構造用単板積層材による柱・はりの燃えしろの値は、45mmである。(○)

問6 (第6章 耐久性に関する木材利用の留意点)

木材の耐腐朽性は辺材と心材では異なり、辺材の耐腐朽性は心材のそれより高い。(×)

問7 (第7章 中大規模木造工事の概要と木質材料調達等の留意点)

製作された材料を検査または試験をして、不適合があれば取り除き、現場に適合品だけを納入することを目的に実施する品質管理手法を品質マネジメントという。(×)

問8 (第8章 木質混構造建築の施工上の留意点)

木質構造と鉄骨構造の混構造建物の工事において、鉄骨工事で著しい工期の遅延等が予想される場合には、部分的に木工事の加工を先行して認めるための調整の方法を、あらかじめ定めておくことが望ましい。(○)

【第2編】木質構造部材の製作（加工）

問9 （第1章 木質構造部材製作者の選定）

木質構造部材製作者の選定に当たっては、実際に生産できる能力を当該製作工場の規模、従業員数、契約電力などから推定する。（○）

問10 （第2章 製品計画と工程計画）

バーチャート工程表では、各工程の開始時期、終了時期及び所要日数は把握しやすいが、各工程の関連が明確ではない。（○）

問11 （第3章 製作要領書）

木質構造部材の製作（加工）において、製作工程が厳しく、納期が間に合わない恐れがある場合は、現寸検査の承認前に一部の補助部材の加工を開始してよい。（×）

問12 （第4章 工場製作）

木質構造部材の製作（加工）におけるボルトの先孔径は、ボルト径が16mm以上の場合はボルト径+2mm、16mm未満の場合はボルト径+1mmとする。（○）

問13 （第5章 接合金物（外注製作））

接合金物の製作にあたり、製作要領書を作成し、元請業者の承諾を受けて監督職員や工事監理者の承認を得る。（○）

問14 （第6章 製品検査）

社内検査により設計図書で要求している品質が担保されているか否かを、製作要領書や内部規程により確認し、その結果を作成・保存するのが品質管理記録である。（○）

【第3編及び建設業法】

問15 （第1章 建方工事及び関連工事会社の選定）

作業主任者の選任が必要な業務には、軒の高さが3m以上の木造建築物の構造部材の組立て、またはこれに伴う屋根下地もしくは外壁下地の取付けの作業も含まれる。（×）

問16 （第2章 施工管理）

設計関係図書の優先順位は、高い方から順に、1. 質疑応答書 2. 現場説明書 3. 見積要項書 4. 特記仕様書 5. 設計図である。（○）

問17 （第3章 現場施工）

木造建築物のアンカーボルト据え付け精度の良否がそのまま建方工事の精度を左右するわけではないので、アンカーボルトが適正な位置に揃わなくても修正の必要は

ない。(×)

問 18 (付録 建設業の許可と種類)

中大規模木造建築工事において、柱やはりなどの主要構造材に木材のみを用い建築する場合には、「大工工事業」の許可で工事を行うことができる。(○)

以上